



2014.1.1.

1月 ちとせだより

神戸YMCAちとせ幼稚園

新しい年の始まりを皆様はどのように迎えられたでしょうか。特に子どもがまだ小さい時期には、一年の子どもの成長を喜び、この年も良い年でありますようにと願ったことでしょうか。新年の迎え方も家族によっても異なり、またそれぞれの地方ごとのしきたりもあることでしょうか。子どもたちも、そんな慣わしを教えるわけでもないのに覚えていきますし、それが当然と受け止めていきます。まさしく、見て体験して覚え、身につけていくのです。

日本小児科医会は、乳幼児の心身の発達への影響が心配されるとして、「スマホに子守をさせないで！」をメッセージとして啓発活動を始めました。スマートフォンやタブレット端末を子どもに渡して、長時間遊ばせている親が多いことに危機感を強めてのことです。確かに絵本やパズル、ゲーム等の幼児向けのアプリは急増し、それらを子どもに与えておくと、子どもは静かにしているからと安易に与えている親も多いように思います。しかし、そのような行為は、親子の直接的な触れ合いや関わり、また子ども同士が直接交わって遊ぶ経験などを減少させてしまうことになります。また、画面をなぞるだけの仮想体験に集中していると、自分を取り巻く様々な環境を五感を通して実感することがどんどん減少してしまうことも事実です。そしてこのような危機感は、日本小児科医会の「子どもとメディア対策委員会」でも以前から取り上げられており、テレビ、ビデオ、テレビゲーム、携帯用ゲーム、インターネット、携帯電話などとの接触が、子どもの発達に様々な影響を及ぼしている可能性を指摘しているのです。

その影響は、長時間の使用となり身体を動かさず運動不足となることや、寝不足となっているといったすぐに影響が現れるものもあれば、直接的な影響と断定しにくいものまで様々でしょう。相手の声や表情が分からないメディア上のコミュニケーションが多くなると、自己中心的な一方的な主張がどうしても多くなりますし、他者との関係も直接やり取りする経験が減少する中では、対人関係能力が低いといわれる若者が増加してきて無理のないことでしょうか。またスマートフォンを手放せず、家族が側にいる家庭においてもゲーム、LINE、メールなどに多くの時間を費やし、実体験よりも仮想体験の中での楽しみを感じている大人も多くなっています。

人間同士の関係は、この社会で生きている限り避けられないものですし、他者との出会い、交わりを通して人間として成長していくものです。子ども同士が大人の価値観に縛られることなく自由に関わり、お互いに様々影響しあってこそ、子どもは本物の子ども時代を経験することが出来ます。本物の子ども時代を過ごした者だけが、本物の大人になることを忘れることなく、子どもたちの世界を見守っていききたいと思います。